

土木事務所の今年度主要事業

県葛南土木事務所を訪問して今年度の道路関係の主要事業について説明を受けました。

県道船橋我孫子線（船取線）のJR跨線橋の北側交差点に、今年度から来年度にかけて右折レーンが設置されます。

県道千葉鎌ヶ谷松戸線・船橋市咲が丘付近、「ウエルシア」と「ツタヤ」の前の約70mの歩道が（といっても側溝の蓋の上ですが）、年内に蓋を撤去してアスファルトになり歩きやすくなります。これは、地域のみなさんと一緒に現地を調査して県に要望してきたものです。

国道296号線・前原駅入り口とその東側の交差点を拡幅し、右折レーンを設ける工事を進めています。1箇所

国道14号線・中山競馬場

だけ土地が買えないためにレーンが設置できていません。共有地で1000人ほどの名義人がいるためです。その場所を外して暫定形で右折レーンの設置を行えば、事業効果も上がるため、検討を進めるよう要請しました。

県道14号線・船橋競馬場

駅からJR船橋駅入り口までの間の歩道拡幅が進められています。また、橋上駅となっている競馬場駅の改札階から直接14号線をまたいで反対側の歩道に降りる歩道橋の計画がありますが、市との協議が進んでいません。本来、県管理の道路に設置される歩道

橋は県負担のはずなのに、市に負担を求めているからです。

地元負担を求めず、県事業として進めるべきです。

木下街道（県道市川印西線）

地域医療調整会議 病床の機能転換で医療費の削減狙う

国は、病院の病床機能を「高度急性期」「急性期」「回復期」「慢性期」の4つに分類し、2025年に必要な病床数を計算して、実際の病床をそれに合わせようとしています。

東葛南部圏域（船橋・習志野・八千代・市川・浦安・鎌ヶ谷の6市）では、6月13日の速報値で「高

度急性期」では必要病床数1376床にたいして現状が1820床で444床過剰とされています。同様に「急性期」は792床過剰、「回復期」は2619床不足、「慢性期」674床不測となっています（上の表）。

県は国の計算式をそのまま受け入れ

最大の問題は、必要病床数が厚生労働省の計算式で決まっており地方の判断は

〔東葛南部圏域の必要病床数と各病院報告数比較〕

	2025年 必要病床数	2017年度 病床機能報告	差し引き
高度急性期	1376	1820	+444
急性期	4783	5575	+792
回復期	4072	1453	▲2619
慢性期	2779	2105	▲674
合計	13010	10953	▲2057

※2018年6月13日速報値



医師や専門家、病院関係者などの参加で開かれた地域医療調整会議
7月31日・船橋市内

ており、地権者も協力していますが、予算が限られているために進んでいません。こうした生活道路の安全対策を優先させるよう要請しました。

反映されないことです。

7月31日に行われた東葛南部地域医療調整会議でも「回復期が不足しているという実感はない」などの疑問が出されましたが、県側からの答えはありませんでした。

一方で県は、各病院から報告されている機能別病床数が必要病床数に近づくかないうことに対して、「医療機関の自主的判断であることから、適切に把握されているとは言いがたい」として、今後、客観的基準を導入する方針を打ち出しました。

これまで「尊重する」としてきた医療機関の自主的な取り組みにたいして、新たな基準を設けて強制的に切り分け、急性期病床から慢性期病床に移行させることによって、医療費削減と、医師や看護師の必要数を減らそうとするところに目的があります。

国民平和大行進が船橋市内を歩きました



平和行進に参加する（右から）中沢学市議、齊藤和子前衆院議員、坂井洋介市議、椎葉寿幸党中央委員、山内金久さん、丸山慎一県議
7月18日・高根公園駅付近

7月18日、国民平和大行進が船橋市を歩きました。5月6日に北海道礼文島を出発して太平洋側を南下し、7月11日千葉県入り。船橋市は74日目となります。5月のスタートから毎日毎日歩いている通し行進者・山内金久さんは、「毎年、違うコースで通し行進をやって今年で4年目。平和を実現するために最後までがんばりたい」と決意表明。行進の出発前に、山内さんが持参したトランペットの伴奏で歌を歌いました。澄んだトランペットの音色が響き渡り、これからの行進を励ましてくれました。

丸山慎一県議も「米朝首脳会談など核兵器廃絶へ世界は大きく動いている。一部に『北朝鮮はまた裏切るのではないかな』などの報道もあるが、出来るかどうか論評していても歴史を前に進めることはできない。世論を広げ、平和外交に力を尽くし、合意された内容を実現させるために頑張るべき。その思いを胸に歩きたいと思う」とあいさつしました。